

この「安全上のご注意」は、バタフライバルブの取扱いで安全に関する重要な事柄について記載しています。ご使用前に必ず、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、内容に従って正しくご使用ください。

内容に従わず誤って取扱いされた場合には、安全上の問題の発生と、バタフライバルブとして十分な性能を発揮しない恐れがあります。

- 「安全上のご注意」には全機種共通のものとシリーズごとに異なるものがあります。
- 特に表示の無い項目はすべて全機種共通の注意項目です。
- 枠線で囲みシリーズ名を表示した項目は、そのシリーズのみに関係する注意項目です。

ゴムシートバルブ	ハイパフォーマンスバルブ
YZシリーズ(YZT/YZR) Gシリーズ(GR-SN/SE、等) NGシリーズ(NGR-SN、等) Pシリーズ(P-RF/2P-RF、等)	SYRA-SP SYR-SP

- 表示内容を無視して誤った取扱いをした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警 告	この表示の欄は、「死亡または、重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注 意	この表示の欄は、「重傷を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

	この様な絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この様な絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。





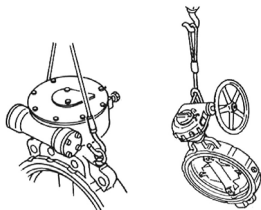
警告



1. バルブの吊り上げ・玉掛けは、安全に十分注意して吊り荷の下に立たないでください。
バルブを吊り下げる場合、ハンドル掛けはしないでください。



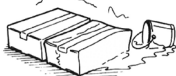
2. バルブを吊り下げる場合、吊りボルトもしくはボンネット部分に、しっかりとバンドを掛け、重量バランスをとって行ってください。



注意



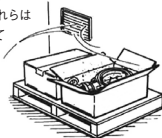
1. 屋内に、保管してください。ダンボール梱包は、水等に濡れると、梱包強度が低下します。保管・取り扱いには十分注意してください。



2. 長期間保管する場合、ゴムシートの変形を防ぐため、弁体を10°程度開いた状態で保管してください。



3. 配管直前まで、バルブの梱包は開けたままで保管しないでください。異物等の混入により製品の機能・性能が低下することがあります。また、バルブの配管接続部の保護と内部への異物の進入を防ぐために、ボード、塩化ビニル系クリアシール、ビニル袋、インスターバック（緩衝材）などで保護をしてあります。バルブの取り付け時、これらは必ず取り除いてください。



4. バルブは放り投げないでください。



5. ダンボール梱包は荷崩れしないように無理な積み重ねをしないでください。



これらの注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生する恐れがあります。

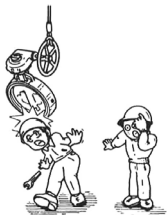
これらの注意を怠ると、傷害事故の発生する恐れがあります。



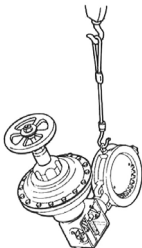
警告



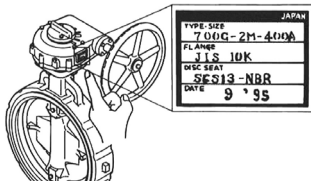
1. バルブの吊り上げ・玉掛けは、安全に十分注意して吊り荷の下に立たないでください。
バルブを吊り下げる場合、ハンドル掛けはしないでください。



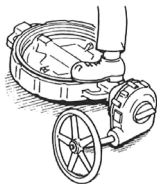
2. バルブを吊り下げる場合、吊りボルトもしくはボンネット部分にしっかりとバンドを掛け、重量バランスをとって行ってください。



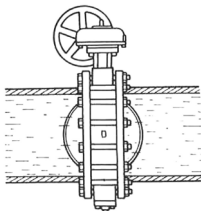
3. 配管に際しては、バルブのシートリングおよび弁体の材質を、銘板で必ず確認してください。



4. バルブを投げ投げたり、アクチュエータ部に物を乗せたり、体重をかけたりしないでください。



5. バルブの最高許容圧力を超えて配管の耐圧テストを行う場合、バルブは必ず全開状態にしてください。
全開状態で行うとシートリング破損の恐れがあります。

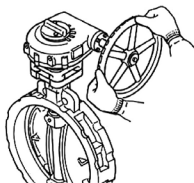


これらの注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生する恐れがあります。

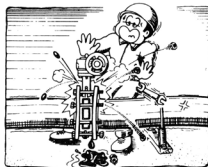


警告

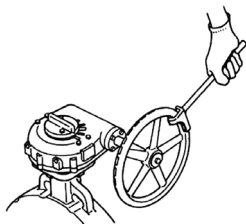
6. 手動式アクチュエータ（レバー・ギア）の開閉操作は必ず手で行ってください。



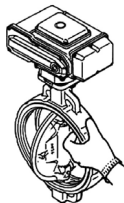
9. 配管内に圧力がかかった状態でのアクチュエータの取り外し・バルブの分解は、絶対にしないでください。



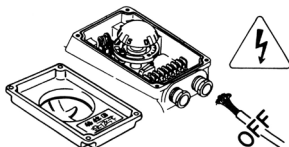
7. レンチやウィルキーをかけて手動式アクチュエータ（レバー・ギア）の開閉操作をしないでください。アクチュエータの破損の恐れがあります。



10. バルブの作動確認をされる場合、シートリングや弁体に手や足をかけたり、工具等で触れないでください。



8. モータアクチュエータの配線に際しては、必ず電源が切れていることを確認し、結線図に基づいて正しく結線してください。



これらの注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生する恐れがあります。



注 意

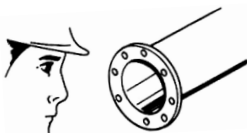
1. 配管に際しては、パイプ・フランジを清掃してください。

下記の注意を怠ると、バルブシートリングの損傷や漏れの原因となります。



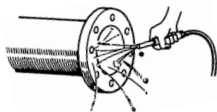
- a) パイプ内に溶接スパッタ・パイプ屑・スケール・砂塵が残っていないことを、確認してください。

- b) フランジの歪みガスケット面の傷がないことを確認してください。

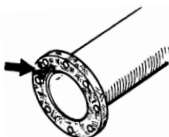


- c) バルブに接するフランジ面は、エアバージ等により清掃してください。

- d) 錆その他の異物が付着している時には、適当な洗浄剤(アルコール・中性洗剤等)で洗浄してください。



- e) 亜鉛メッキフランジの場合、フランジ面の極端な凹凸はフランジ漏れの原因となります。



- f) 下記の場合シートリング（ガスケット）の損傷やフランジ漏れの原因となります。

過大な溶接のとけ込み

内径が大きくなるとフランジ洩れになることがあります。

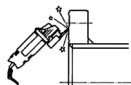


シャープエッジ

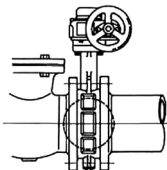
シートリング（ガスケット）切損の危険性があります。



グライディングによる粗い面仕上げフランジ洩れの原因になります。



2. 逆止弁やポンプへの直付けは絶対にしてないでください。他の機器に弁体があり、損傷する恐れがあります。



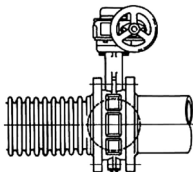
これらの注意を怠ると、傷害事故の発生する恐れがあります。



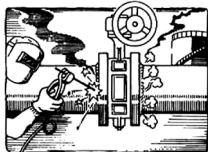
注 意



3. ゴム製フレキシブル継手の直付配管は避けてください。作動不良の原因となります。



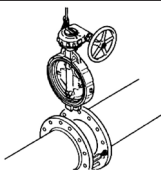
4. 配管フランジの溶接後、すぐにバルブを取り付けしないでください。また、バルブをフランジに取り付けて溶接することも絶対に避けてください。シートリングが熱の影響を受け、外部漏れの原因となります。



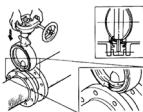
5. ハイパフォーマンスバルブの取り付け・取り外し時には、必ず弁体を全開にしてください。

ゴムシート・樹脂ライニングバルブ

弁体を全開の手前(約10°開)の状態で行ってください。



6. バルブをフランジの間に無理に押し込まないでください。ジャッキボルトで面間を広げてください。無理に押し込むと、シートリングがめくれや傷により漏れの原因となります。



ゴムシートバルブ



7. 配管用ガスケットは使用しないでください。作動不良の原因となります。



ハイパフォーマンスバルブ



8. 配管時、ガスケットパッキンをバルブの両側に必ず使用してください。(但しゴム等の軟質ガスケットは使用しないでください。)



9. 口径65mmの配管時、平形ガスケットをご使用の場合は、内径77mm以下のものをご使用ください。



10. PTFE包みガスケットをご使用される場合は、ご相談ください。



11. ルーズフランジによる配管は避けて下さい。

これらの注意を怠ると、傷害事故の発生する恐れがあります。

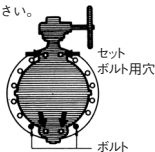


注 意



12. バルブを配管する場合、バルブ本体の芯だし用リブを目安として、配管用ボルトとバルブの隙間が均一になるよう目視調整してフランジとバルブの中心を一致させてください。芯出しが正確でないと、外部漏れ及び弁座リークの原因となります。

- a) 配管の中心を出した後、バルブの底にあたる位置に配管ボルトを差し込みバルブの落とし止めをしてください。



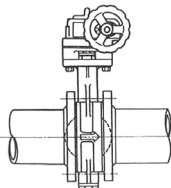
- b) 配管フランジが平行で、ずれや傾斜がないことを確認してください。



ハイパフォーマンスバルブ



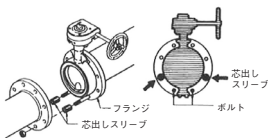
- d) バルブ配管時、加圧方向を本体や銘板に表示された矢印の方向と合致させて取り付けてください。なお、運転の都合上、両方向加圧となる場合、弊社にお問い合わせください。



ゴムシートバルブ



- c) 「芯出しスリーブ」が付属しているバルブは、必ず「芯出しスリーブ」を使用してください。(10K フランジのみ)



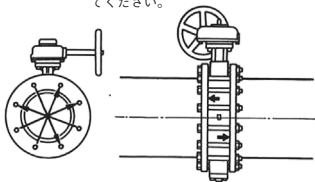
これらの注意を怠ると、傷害事故の発生する恐れがあります。



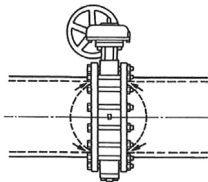
注 意



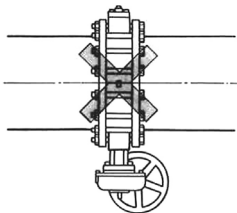
13. 配管用ボルトの締め付けは、対角線上のものから交互に均等な力で締め付け、弁箱の両端面が、管フランジに当たるまで充分に行い、片締めのない様にしてください。



15. 配管ボルト締め付け後、バルブの弁体を開状態にしてもフランジ内側に弁体が当たらないことを、念のために確認してください。



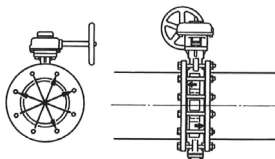
16. 駆動部が下向きになるような設置方法は、なるべく避けてください。特にバルブ呼び径350mm以上は、弁棒下部でスラスト荷重を受けているため、絶対に下向きにならないようにしてください。



ハイパフォーマンスバルブ



14. 配管用ボルトの締め付けは、バルブを全閉状態にして、対角線上のものから交互に均等な力で締め付け、片締めのないようにしてください。



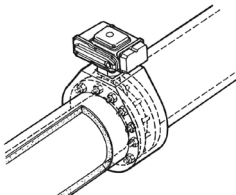


警告

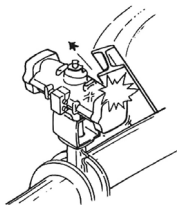
ハイパフォーマンสบバルブ



17. 100℃を越える高温流体に使用する場合は、バルブ本体部にも保温材を巻いてください。



18. アクチュエータに強大な力で物を当てたり、強い衝撃を与えないでください。



100℃を越える高温流体に使用する場合は、バルブ本体部にも保温材を巻いてください。

ゴムシートバタフライバルブ



19. インパクトレンチのご使用について
ゴムシートバタフライバルブの配管作業及び、配管ボルトの増し締めに出出力のインパクトレンチを使用されますと、ご使用機種やご使用方法により、バルブ本体、ゴムシートリング、配管フランジ（特に樹脂ライニング管）、ボルト等の変形や破損の原因となる可能性がありますので、ご注意ください。
インパクトレンチをご使用になる場合は、最大出力を下表の数値以下の機種で作業してください。

表1 金属製フランジの場合

ボルト径	M12	M16	M20	M22	M24	M30	M36
インパクトレンチ 最大出力Nm	43	106	206	280	360	700	1,240
	以下	以下	以下	以下	以下	以下	以下

表2 樹脂製フランジ、樹脂ライニングフランジの場合

弁口径	ボルト径	推奨トルク (Nm)
40～100mm	M16	40
125～200mm	M20	80
250～350mm	M22	100
400～500mm	M24	130
550～600mm	M30	250

これらの注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生する恐れがあります。

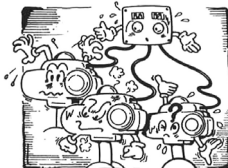


注 意

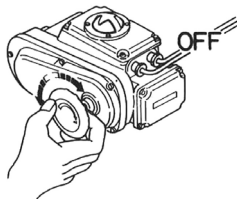
20. 電動式アクチュエータの場合、下記の項目にご注意ください。



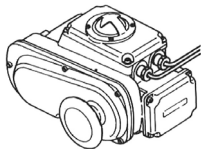
- a) 電動弁2台以上を1つのスイッチで開閉させないでください。誤動作の原因となります。



- c) 手動で操作する時は、必ず電源を切ってください。
電源が入ったまま手動操作すると、ハンドルが逆転し重傷を負う恐れがあります。



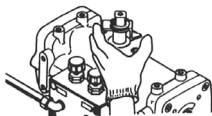
- b) 配線引き出し口の封止措置を必ず行ってください。雨水等の侵入により感電の恐れがあります。



- d) 開度表示を見て、全開・全閉以上に操作しないでください。



21. 試運転中は空気圧式アクチュエータの上部インジケータ部分に触れないでください。



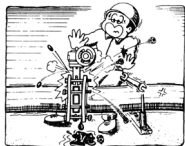
これらの注意を怠ると、傷害事故の発生する恐れがあります。



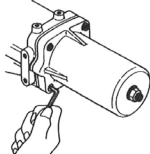
注 意



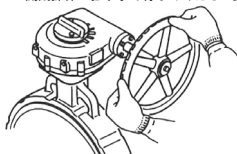
1. 配管内に圧力がかかった状態でのアクチュエータの取り外し・バルブの分解は、絶対にしないでください。



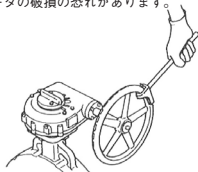
2. エア・シリンダーのスプリングユニットは、絶対に取り外さないでください。



3. 手動式アクチュエータ（レバー・ギア）の開閉操作は必ず手で行ってください。



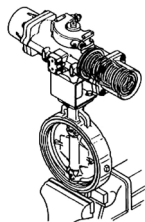
4. レンチやウィルキーをかけて手動式アクチュエータ（レバー・ギア）の開閉操作をしないでください。アクチュエータの破損の恐れがあります。



5. 毒性のある流体や腐食性流体に使用されたバルブを、取り外し・保管または廃棄される場合は、バルブに直接触れないようにしてください。バルブ内部に浸透した流体が、しみ出る可能性があります。



6. スプリングリターン式シリンダを保管・運搬される場合は、操作エアを抜いた状態で作業してください。突然スプリングが作動することにより、傷害事故の原因となります。



これらの注意を怠ると、傷害事故の発生する恐れがあります。



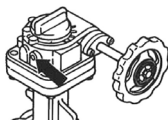
注 意



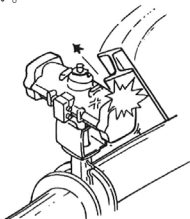
7. メンテナンスは、必ず取扱説明書に従ってください。



8. アクチュエータのストッパーボルトはさわらないでください。

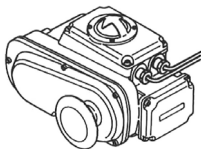


9. アクチュエータに、強大な力で物を当てたり、強い衝撃を与えないでください。

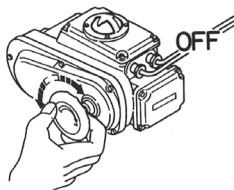


10. 電動式アクチュエータの場合、下記の項目にご注意ください。

- a) 配線引き出し口の封止措置を必ず行ってください。雨水等の侵入により感電の恐れがあります。



- b) 手で操作する時は、必ず電源を切ってください。
電源が入ったまま手動操作すると、ハンドルが逆転し重傷を負う恐れがあります。



- c) 開度表示を見て全開・全閉以上に操作しないでください。



これらの注意を怠ると、傷害事故の発生する恐れがあります。

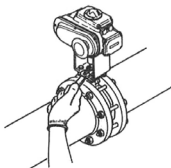


注 意

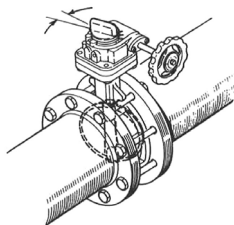
ハイパフォーマンスバルブ



1. グランド部、底フタ部などから漏れが発生した時は、直ちにナット、ボルトを増し締めしてください。ナット、ボルトの締め付けは交互に均等に行い、片締まりのないようにしてください。



2. 弁開度を30°以下で絞り運転される場合は必ず弊社にご相談ください。



- ・ **SYR-SP、SYRA-SP**において、遊合形フランジ（ルーズフランジ+管端つば出しステンレス鋼管継手又はスタブエンド）での配管はしないでください。

バルブとの芯出しが難しいため、弁座漏れや外部漏れの恐れがあります。

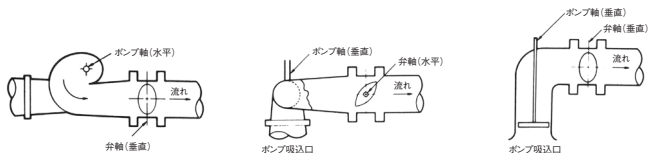
- ・ **SYR-SP、SYRA-SP**において、樹脂製フランジでの配管はしないでください。樹脂製フランジはゴムガスケットを推奨しているのと、**SYR-SP、SYRA-SP**ではゴムガスケットの使用を禁止しているためです。

他のゴムガスケットを使用する場合でも、配管ボルトを強く締めるとフランジが破損します。

推奨バルブ取り付け方向

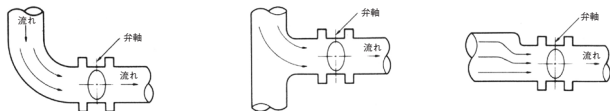
☆ 長期間安全にご使用いただくために、配管される際は、下記推奨バルブ取り付け方向をご採用ください。

ポンプ出口バルブの取り付け方

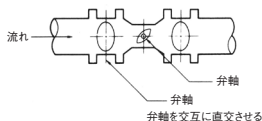


曲管（エルボ）の二次側・レギュレーサの下流側・コントロール弁の二次側には設置しないでください。やむを得ずこれらの場所に設置する場合はバルブ呼び径の5倍程度離してください。

曲がり管、レギュレーサ部の取り付け方



コントロールバルブとストップバルブの組合せの場合





<http://yamatovalve.co.jp>

■首都圏 TEL(03)3492-6221(代)

第1・2営業所

■関西 TEL(06)6538-2371(代)

第1・2営業所

■彦根工場 TEL(0749)28-0643